

---

# 創造神の誕生～vividな外伝～

白黒

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

創造神の誕生〜vivividな外伝〜

### 【Nコード】

N3579BA

### 【作者名】

白黒

### 【あらすじ】

この物語は創造神の誕生（後）のなのは編の外伝vivivid編である。《あらすじ》転生神事件から4年が経過し聖王のクローン創神ヴィヴィオはStt・ヒルデ魔法学院初等科4年生になった。彼女はいつもの友達+と一緒に学院を歩き幸せな学園生活を満喫していた。同じ頃、霸王の血と記憶を受け継ぐ少女と両親と同じ執務官を目指す少年が出会う。聖王と霸王は運命の出会う。これはそんな偶然か必然か…そんな運命的な出会いをする少年少女達の物語である。

Memory0 最初はプロローグから入ります(前書き)

まずはプロローグ

## Memory00 最初はプロローグから入ります

次元の海を中心世界『ミッドチルダ』。

都市型テロ『転生神事件』の発生と解決から、すでに4年が経過して時空管理局は縮小し海と陸は真の一つとなった。

対処に当たった部隊『機動六課』もすでに解散。

さらにスカリエッティ一味もそれぞれの進む道に歩む。

そして、ごく一部しか知らない謎の英雄も世間から消え、大切な者達と過ごす。

誰もがそれぞれの生活をし、翼をひとつとき休める。

育ちゆくのは新たな世代。

これは謎の英雄の一人娘にしてStt・ヒルデ魔法学院初等科4年生  
『創神ヴィヴィオ』の鮮烈な物語！

Memory0 最初はプロローグから入ります(後書き)

次回から本格的にスタート

Memory01 まずはここ挨拶から(前書き)

本編の始まり始まり。

まずはヒロインヴィヴィオから

## Memory 01 まずはご挨拶から

ヴィヴィオSIDE

わたしの名前は『創神ヴィヴィオ』！ミッドチルダ在住の魔法学院  
初等科4年生。

公務員のママ『高町なのは』とふたり暮らしです。

本当はパパもいるけど、パパはただいま放浪中なのでいません。  
近い内に教えられたらと思います。

「ヴィヴィオ〜！朝ご飯だよ〜」

「はあ〜いつ〜！」

その前に、早く制服に着替えて朝ご飯を食べないと！

朝ご飯を食べ、学院に行く準備を完了したのはママと一緒にお家か  
ら出る。

「ヴィヴィオ、今日は始業式だけでしょ？」

「そだよー！帰りにちょっと寄り道してくけど」

「今日はママもちよっと早めに帰ってこられるから晩ご飯は4年生  
進級のお祝いモードにしよっか？」

「いいねー」

「さて、それじゃ」

「うん」

「「「いつてきまーす！」」」

わたしとなのはママはハイタッチして出発する。

わたしとなのはママはけっこう仲良し親子なんです。

…時々喧嘩もするけど…

St・ヒルデ魔法学院初等科・中等科棟に到着！え〜と…みんな何処かな？

「ヴィヴィオ」

後ろから声が聞こえてきた。

振り替えると、2人の女の子と1人の男の子と一緒に歩いてきたわたしのそばまで寄ってきた。

3人はわたしの仲良しの友達なんだ。

紹介するね…まずは『コロナ・ティルミル』、おとなしめで思慮深い女の子。

次に『リオ・ウェズリー』、かばつで元気一杯の女の子。

最後に男の子の『トウヤ・ミナミ』、物静かだけど明るくて優しい。

「「「ぎげんようヴィヴィオ」」」

「おはようヴィヴィオ」

「コロナ！リオ！トウヤ！」

「クラス分けも見た？」

「見た見た！！」

「4人一緒のクラス！！」

「まさか一緒になるなんてね」

「「「いえーい」「」」

わたしとコロナとリオはハイタッチをする。

やった〜！3人と一緒のクラスだ！アレ？トウヤはハイタッチしないの？

「「「こらこら、周りをみなよ。注目の的だよ、恥ずかしい」

「あら、はしたない」

「あらあらまあまあ」

うう…確かに周りをみたらみんな、わたし達を見てる。  
恥ずかしい。

「さ、さっさと行こう」

「そっだね！」

『選択授業で応用魔法学を選択したみなさんは、これから授業も難しくなってくると思いますが……しっかり学んでおけば将来きっと役に立ちますからね』

やっと学長の話も終わった。

これで始業式も終わり。

「は〜、終わった終わった！」

「寄り道してく？」

「もちろん！」

「トウヤくんは？」

「僕も寄ろうかな」

寄る所は図書館、借りたい本もあるし……あ、でもその前に。

「ねえ。行く前に教室で記念写真撮りたいな」

「なんで？」

「お世話になってるみなさんに送りたいんだ」

みなさんのおかげで、ヴィヴィオは今日も元気ですよ……って。教室に入り、4人一緒に写真を撮りみなさんに送る。

……その後、図書館に寄りテーブルに座り借りたい本を探す。

「(ピローン) …あ、メール返ってきたー」

「そういえばヴィヴィオって自分専用のデバイス持ってないんだね」

「それ、フツの通信端末でしょ？」

「そーなんだよー。うち、ママとその愛機レイジング・ハートがけっこー厳しくって」

「基礎を勉強し終えるまでは自分専用のデバイスとかいりません」

「I a c t a s a s u b s t i t u t e t i l l t h e  
n .」(それまでは、私が代役を)」

「…だつて」

「そーかー」

「本当に厳しいんだ」

「リオはいーなー。自分用のインテリ型で」

「あははー」

「I · m s o r r y .」(すみません)

あゝあ、早く自分用のデバイスがほしいなあ。  
いつになったら…

「そういえば、ヴィヴィオのお父さんからはないの？」

「うん。パパはママに任せてるの。パパ曰く自分は教えるというのは苦手らしいんだ」

「そういえばリオとトウヤはヴィヴィオのお父さんには会った事ないんだよね」

「確かに…僕とリオは会った事ないね。コロナは会った事あるの？」

「うん。一度だけね」

「トウヤも自分用のデバイスがあるんでしょ？」

「え？…うん」

羨ましいな。

やっぱりデバイスほしいな。

わたしだったら…どんなデバイスがいいかな？

「(ピピッ) (あ…丁度ママからのメールだ」

「なにかご用事とか？」

「…あーへいきへいき。早めに帰ってくるとちょっと嬉しい」トトがあるかもよ…だって」

「そっか」

「じゃ、借りる本決めちゃお！」

「うん！」

わたし達は借りた本を決め、入り口で3人と別れる。  
実はわたしはその昔、生まれ方関係でちよつといろいろあつたりした。

なのはママやパパとも血の繋がった親子ではないし、今の仲良しのみんなともほんの数年前には本当に…本当にいろいろな事があつた。でもわたしがわたしのまま、創神ヴィヴィオとして生きる事を許してくれた人たちのおかげで…わたしは今、なんだかすごく幸せだったりします。

Memory 01 まずはご挨拶から（後書き）

ほのぼのな話にする予定なのでちょっと難しい。  
なんとか楽しい感じで書いてゆきます！

次回、セイクリッド・ハート

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3579ba/>

---

創造神の誕生～vividな外伝～

2012年1月14日09時47分発行